

## 海城中学高等学校

時代が求める新しい「学力」「人間力」の  
養成をめざし さらなる改革を  
推進するための研究機関を新設

130年を超える歴史を刻む海城中学高等学校では、建学の精神「国家・社会に有為な人材の育成」を実現すべく、1990年代初頭から学校改革を推し進めてきた。例年50人近くの東大合格者を輩出するなど高い進学実績でも知られる同校が次にめざす教育について、この春、新設された教育研究所の所長を務める中田大成先生に聞いた。

予測不可能な社会に向けて  
教育現場の変化をより迅速に

創立100周年を迎えた1990年代初頭から「新しい学力」と「新しい人間力」の育成を柱とする学校改革を進めてきた海城中学高等学校。そんな海城学園（法人）にこの春、教育研究所という新しい部署が創設された。所長に就任したのは、長年、教頭・校長特別補佐として改革を牽引してきた中田大成先生だ。その趣旨について次のよう



海城教育研究所 所長  
中田 大成先生

に話す。「30年間にわたる改革は、およそ10年ごとの区分で実施し、第一期は『学力の養成』、第二期は『人間力の養成』、そして2008年秋からの第三期では、『グローバル教育とICT教育の環境整備』に努めてきました。その都度、校長や現場の教員を交えた諮問機関を立ち上げ、情報収集・意見交換を重ねて、様々な学習プログラムを軌道にのせてきたのです。その過程で何よりがゆかったのは、関係者が忙しくてなかなか集まることのできないことでした。教育現場は本当に忙しい。授業の準備、部活の顧問、問題作成・採点、保護者の対応、事務作業……。『こういうことを生徒にやらせたい』という熱い思いを持つているのに、その準備に専念する時間がないのです。一方、時代はAIの台頭による超情報化社会が到来しています。遅れをとらないため

には、『次なる手』に向けて調査・研究に専念できる役割・機関が不可欠と理事会が考えたのです」。

向き合う相手の反応を感じ取り  
瞬時に判断し、行動できる人に

VUCA (Volatility変動性、Uncertainty不確実性、Complexity複雑性、Ambiguity曖昧性) という言葉に象徴される現代社会。「知識やそれを活用する力もちろん大切ですが、社会に出てから求められる能力は時代とともに変わります。予測不能な時代だからこそ、その場で瞬時に判断・行動し、反応を見ながら、解決できるセンスを生徒たちには身につけてもらいたい」と中田先生は言う。2000年代初頭に導入した「ドラマエデュケーション」は、文字通り演劇的手法を用いて人間関係力や想像力を育む体験学習プログラムだ。これまでもその学習の中で想定外の事態に即興的に対応する訓練をして来た。例えば、「友達と歩く通学路で泣いている迷子の相手をしている」場面、事前に知らされていないおぼさんが突然現れて「あなたたち子供を泣かすようなことをしちや、ダメでしょ」と怒鳴られた時どう即座に対応するかというワークシヨップ。対する相手の反応を見ながら、自分の与えられた役割を果たすべきことを即座に考え、行動に移す、こうした力が今はこれまでに上を求められている。時代のニーズに応えるべく、これまで実施してきた学習プログラムをどう更新すべきか、そ



即興対応も求められる中1演劇ワークシヨップの様子

れを考えるのも研究所の取り組み課題のひとつである。

全教室に電子黒板機能付きプロジェクトター設置、校舎内全域でのWi-Fi整備、全生徒・教員へのデバイス配布、ICT支援員による技術サポートなど、ICT教育促進に向けた準備はすでに2010年代後半には完成させている。新学習指導要領の施行に伴うカリキュラム改訂において、「情報」の学習プログラムも中・高で刷新した。「しかし、新たな課題は次々と生じています。AIを使いこなしながら、AIに負けない能力を養うそのためには、教員も学び、アイデアを出していかねばならず、最先端を知る第一人者の協力を求める必要も出てきます。次年度の大学入学共通テストから新科目として『情報』が加わるので、その対策もしなくてはなりません。培ってきた人脈を活かして、『生徒のために先手を打つ』改革をさらに推進させていきます」。

## SCHOOL DATA

東京都新宿区大久保  
3-6-1  
TEL : 03-3209-5880

